# 昭和４年　開館当初の興風会館

## 大ホールでは連日、講演会や演芸会を実施

昭和４年の開館当時、収容人数は１１１２人（２階５６４人、３階１８８人、４階３６０人）でした。その後、座席を３回改修し、現在はゆったりと座れる５０６席になっています。３階には２１のレリーフがあり、天井にはアールデコ調の照明が設置されています。４階には映写室がありますが、現在は使われていません。

大ホールの出入り口には、「民風作興」の額が掲げられていますが、これは、開館当時の講演会の講師の一人である一条實孝侯爵の書です。設立当初は大ホールステージの上に掲げられていました。

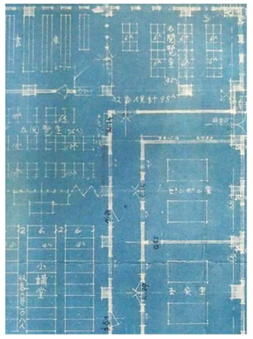
大正１２年の関東大震災の後、国力の回復や道徳の振興などを呼びかける「国民精神作興詔書」が発せられ、政府は告諭を発表して「・・民風を作興し質実剛健・・」などと繰り返し、詔書の理解を求めていました。

## １階にあった　図書室

１階奥、現在の第一会議室に、当時の町立図書館の蔵書を引き受けて図書館を開館しました。全国的にも稀な私立の図書館として昭和５４年に野田市に移管されるまで、５０年の永きに亘り地域住民に図書館サービスを提供しました。当時町営図書館は、地域の青年有志の研修団体「野田戊申会」が運営していた「野田簡易図書館」を学制発布５０年にあたり町が譲り受け開設されたものです。これが興風会に移譲されました。野田の図書館は私立から始まり、公立、私立、そして現在の公立と運営主体が代わっており、全国的にも稀な歴史を持っていることになります。

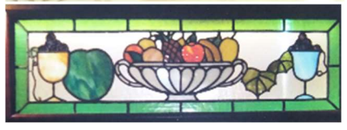
## ピンポン室や玉突室も

開館当時の青図を見ると、現事務室は「玉突室」、現談話室は「ピンポン室」とあります。昭和初期に、１階では読書や卓球・ビリヤードで娯楽を楽しみ、２階大ホールでは文化人の講演を聴き、地下では洋食を食べるといった最先端の文化活動がこの地で行われていたことになります。



## 開館と同時に、地下に洋食の食堂がオープンしました

開館と同時に地下に食堂を設け、営業を開始しました。当初の請負業者は、現在の千葉興業銀行野田支店近くで営業していた料亭「門松楼」の経営者である南つね氏でした。この洋食のレストランは、その後尾形清吉氏に代わり中華料理店として営業をしました。尾形氏は、後にレストラン「幸楽」を琴平町通りに創業し、現在はレストラン「華」を併せ、愛宕駅東側で営業しています。「華」のバーカウンターの背後の壁面に備えられているステンドグラスは、地下食堂の装飾を移設したものです。閉館した時期は不明ですが、終戦前には終了していたと思われます。



上：レストランの様子
下：「華」に残るステンドグラス

## ２階には応接室と会議室

【応接室】
現在の第二会議室は、当初応接室として使われていました。ゆったりとしたひじ掛け付きの椅子が置かれていました。南側にも窓がありますが、平成１２年の耐震工事の時に壁になってしまいました。外から見ると窓が残っています。

【会議室】
現在のホワイエは、当初会議室として使われていました。当時は壁で仕切られていましたが、消防法の関係で壁が取り払われホワイエになりました。マントルピースとテーブルは、当時のものです。

【右の写真はいずれも昭和２９年の時のもの】

## ３階の和室は当時のまま

外から見ると館内に和室があるようには見えませんが、建設当初から書院づくりの和室がありました。興風会館内で一番変わっていない場所です。ここでは、書道や舞踊等が行われていました。書道講習会は、昭和１１年から開催され、現在でも、興風少年書道教室として受け継がれています。

## 当時のトイレ

開館当初から、トイレは水洗式でした。水を上にためてその水圧で流す方式です。野田町第２号（第１号は現市民会館の茂木佐邸）です。

当時の注意書きも残されていました。令和５年度のトイレ改修で、その姿を消すことになりました。

## ３階の書庫は育英部事務室

初代理事長茂木七郎右衛門翁が大正９年に創立した野田謝恩会を引き継ぐ形で、昭和１５年から興風会が育英事業を行いました。育英部懇談会も開催されました。昭和３８年からは、「和楽会」と改称し、毎年総会を実施して親睦を深めています。奨学生の中には、文化人類学者で文化功労者の石毛直道氏をはじめ、各界で活躍する著名人が多くいます。

【昭和１９年頃の育英部事務室】

## スカウト・ルームに

育英事務室は、昭和３６年には、ボーイスカウト千葉連盟の事務局となり、その後はスカウト・ルームとして活用されました。野田にボーイスカウトが誕生したのは昭和３４年です。当館の神崎邦治主事が、自ら生きる力を伸ばすにはボーイスカウト運動が最適であると考えたからです。

神崎主事は、昭和３８年に日本ボーイスカウト千葉県連盟理事に就任し、昭和４１年から４６年まで理事長として活躍されました。

# 独立したもう一つの興風会

## 興風図書館独立館

昭和１６年、柏屋家隣接地に図書館の独立館舎が完成しました。開館以来無料公開を続けていましたが、戦後の財政難に対応し、昭和２１年からは閲覧料を徴収しました。昭和２９年以降の徴収額は１回成人５円、児童１円であったため、「１円図書館」として親しまれていました。

昭和５１年には、図書館は興風会から分離、財団法人興風図書館として独立しました。その後、興風会は昭和５３年に市に無償譲渡し、図書館サービスを続けてきた歴史に幕を閉じました。

## 野田看護婦学校を建設

昭和１８年、上花輪に「興風会附属野田看護婦学校」を建設しました。校長は興風会主事が兼務し、昭和２６年まで看護婦養成は継続されました。その後昭和２７年、医師会附属准看護婦養成所が開講、事業は野田医師会に引き継がれました。

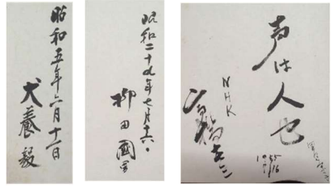
# 興風会館に残る資料

興風会　初代主事
**杉本幸雄氏の肖像画**

**総武鉄道全線開通ポスター**
当館で「野田小唄」の発表会が行われた。昭 5. 10. 11

**芳名帳**

山田耕作（昭５）



犬養毅（昭 5）　柳田国男（昭 29）　高橋圭三（昭 30）

**米山朴庵の掛け軸**

1864 年に山梨県（現在の都留市）で生まれる。師匠の和亭とともによく野田を訪れ、興風会初代理事長茂木七郎右衛門宅に寄寓し、多くの作品を残す。100 年以上経ても美しい色彩を残している。

**須田輝州　「長瀞の紅葉」**

1865 年生まれ
床次正精に入門。
1904 年乃木将軍に直訴して従軍画家として日露戦争戦地に赴く。